

医療・福祉

支援先企業の概要			
・業種	医療		
・創業後年数（10年未満であれば）	<input type="text"/>	・企業規模（中小企業者に該当する場合には）	<input type="text"/>
経営支援前の企業の状況			
開業初年度は、開業遅延が原因で、計画収益および、資金繰りが実績と乖離し、大幅な創業赤字を計上した。 当初より開業時の自己資金が不足しており、薬品業者、建設業者への支払繰延で凌いでいたため、収益面は改善するも資金繰りは依然厳しい状況にあった。			
経営支援概要			
< 当行の施策 > ○ 診療科目の収入比重、経費配分等、当初事業計画と収益構造上の変更点もあり、事業計画の再策定をサポートした。 ○ 収入項目の細分化、経費項目の予算化等、管理会計ベースでの収益管理を推進した。 ○ 資金調達の代替手段となっていた未払金を整理し、資金繰りの安定化を推進した。 ○ 未払金の整理に際し診療報酬（売掛債権）を担保とし、円滑な資金支援を実施した。			
< 当該企業の施策 > ○ 急性期病院として認知されるよう優秀な医療スタッフの確保に努めた。 ○ 院外薬局制の導入により、診療収入と薬剤収入を分離し、収益実態を明確にした。 ○ 病床稼働率と合わせて、在院日数の管理を徹底することで、収益率の向上を図った。			
経営支援後の企業の状況			
○ 地域医療の中核病院としての地位を確立し、高度な医療技術を持つ急性期病院として、県内他医療機関からの信頼も厚い。 ○ 資金繰りが安定し、設備の更新、人材の確保等、中長期的な事業計画の立案が可能となった。 ○ 財務体質の大幅な改善により創業赤字解消の目途も立ち債務者区分を要注意先から正常先へランクアップした。			